

(参考)

1 試験生産に至るまでの経緯

- ・うなぎ養殖は、採捕した天然のしらすうなぎを飼育して行われるが、うなぎ（にほんうなぎ）の資源は著しく減少しており、資源の有効利用が必要になっている。
- ・従来の方法で養殖された雄のうなぎは、大きく成長すると身が硬くなってしまうため、1尾当たり 200～250g のサイズで出荷されている。
- ・そこで、愛知県水産試験場は 2018 年から大きく成長しても身質の良い雌のうなぎを育てる技術開発に着手し、2020 年に同技術を開発した。(2020 年 11 月 26 日記者発表済み)
- ・今年度は、同技術の実証を行うため、一色うなぎ漁業協同組合は自組合の養殖場において、愛知県水産試験場及び共立製薬株式会社（東京都千代田区）と連携して、養殖試験を実施している。(本試験は生物系特定産業技術研究支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」の支援を受けて実施)
- ・養殖試験では、うなぎは順調に成長しており、本年 3 月上旬頃には従来の 2 倍（400～500g）の大きさのうなぎが生産される見込みである。なお、生産したうなぎは 3 月中旬頃から西尾市内で試験販売が行われる予定である。

2 新技術について

大豆食品に含まれる「大豆イソフラボン」を、一定期間、餌に混ぜてしらすうなぎに食べさせることにより、身質の良い雌のうなぎを効率的に作ることができる。本技術を用いたうなぎは従来の 2 倍（400～500g）の大きさに成長させても、身が柔らかく、おいしいうなぎを育てることができ、資源の有効利用になる。なお、この技術は愛知県と一色うなぎ漁業協同組合、共立製薬株式会社が共同で 2021 年 11 月に特許を取得(特許第 6970992 号)。

3 試験販売について

試験生産したうなぎは、一色うなぎ漁業協同組合が経営する「うなぎ処 いっしき」で、3 月中旬頃から試験的に食事として提供する予定。詳細はホームページに掲載。

- ・住所：〒444-0424 愛知県西尾市一色町^{こやぶなえ}小藪船江東 176
- ・電話：0563-65-0141
- ・ホームページ：<http://www.unagidokoro.jp/>



うなぎ処 いっしき

4 養殖うなぎの生産状況

- ・ 2020年における本県の養殖うなぎ生産量は4,315トン、全国シェアは26%を占め、鹿児島県に次いで全国2位となっている。
- ・ 県内の主な産地は西尾市、豊橋市、高浜市である。
- ・ 2020年における本県の養殖うなぎの産出額は約181億円。
- ・ 本県の養殖うなぎ生産量は、年々減少傾向にあり、20年前から5割減少している。

<2020年 養殖うなぎの生産上位県>

	県	生産量	全国シェア
1位	鹿児島県	7,057トン	42%
2位	愛知県	4,315トン	26%
3位	宮崎県	2,856トン	17%
4位	静岡県	1,536トン	9%
5位	徳島県	243トン	1%
	全 国	16,887トン	—

(出典：農林水産統計 第一報)

<養鰻業の経営体、生産量、産出額の推移>

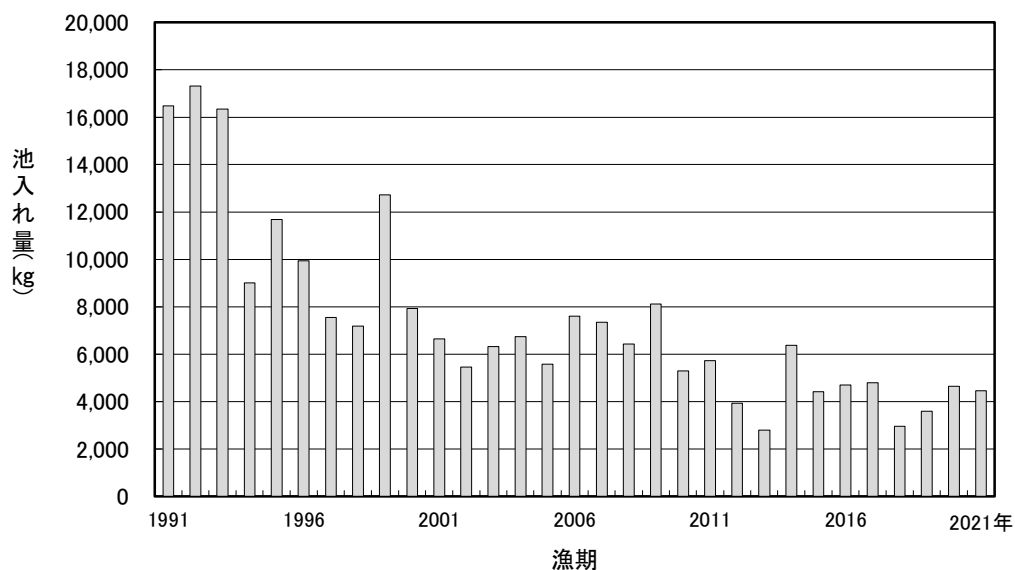
年		2000	2016	2017	2018	2019	2020
愛知県経営体数		203	135	134	133	125	125
生産量	全国(トン)	24,118	18,907	20,979	15,111	17,071	16,887
	愛知(トン)	8,317	4,742	5,780	3,459	4,357	4,315
	全国比(%)	34	25	28	23	26	26
愛知県産出額(億円)		83.9	163.0	192.0	153.3	189.3	180.6
単価(円/kg)		1,009	3,437	3,321	4,432	4,344	4,185

(出展：生産量は農林水産統計、その他は水産課調べ)

5 しらすうなぎの池入れ状況

- ・ しらすうなぎの採捕量が減少している影響から、本県の池入れ数は減少傾向が続いている。

<本県のしらすうなぎの池入れ量の推移>



※池入れ量：養殖業者が稚魚のしらすうなぎを養殖池に入れる量 (水産課調べ)

6 問合せ先

(1) 試験販売に関すること

一色うなぎ漁業協同組合

所在地 西尾市一色町対米船原18

電話 0563-72-8847 (直通)

メール unagi@katch.ne.jp

(2) 技術に関すること

愛知県水産試験場 内水面漁業研究所 内水面養殖グループ

所在地 西尾市一色町細川大岡一の割56の6

電話 0563-72-7643 (直通)

メール suishi-naisuimen@pref.aichi.lg.jp